

News vol. 5

2001.OCT

島根県古代文化センター



(青獅子舞)

10月の祭礼行事

島根県指定民俗文化財 青獅子舞

平田市 埴田神社

埴田神社に伝承されている古い獅子頭が、艶のある黒色をしていることなどから青獅子舞と呼ばれている。平田地域は獅子舞が多く伝承されているが、享保2(1717)年の『雲陽誌』では、当社の獅子舞のみ記述されている。演目は、道中舞、鳥居舞、拝舞、ささら、刀舞、三番双など12段。獅子は基本的に3人立ち。番内がピンササラを持つ点などに田楽の影響が見られるとされている。段ごとに採物を変えて舞われるなど、伊勢流獅子舞の影響を強く受けて

いる。伊勢流獅子舞とは伊勢神宮の信仰を伝えて歩く御師が行う大神楽獅子が変化したものである。実際、周辺の獅子舞の由来伝承では、大神楽の巡業中、長雨にたたられて長期滞留した時に、地域の若者に伝授したといわれるなど(若宮神社獅子舞・玖潭神社獅子舞)、伊勢の大神楽との関係を想定することができる。(品川)

(参考文献)『島根の民俗芸能』、平成元年、島根県教育委員会

旧石器時代

1. 線刻礫 (約24000年前・鹿児島県財部町耳取遺跡) 2. 石刃 (約23000年前・新潟県津南町洞振原A遺跡)

旧石器時代のピーナス? 山形に膨らんだ下半部を女性の

下腹部に見立てている。緑部は女性器か?。



島根県立博物館

特別展

発掘された日本列島 2001 新発見考古速報展

地域展

発掘された出雲の巨大神殿 出雲大社境内遺跡の発見

近年全国各地で発見され、話題をよんだ出土品を一堂に会した速報展。島根県では初めての開催となります。出土品を通して旧石器時代から幕末までの人々のあゆみに思いを馳せてください。

地域展示コーナーでは、巨大神殿の伝承を裏付けることとなった出雲大社境内遺跡を取り上げ、最新の調査結果をわかりやすく紹介します。

期 間 平成13年10月16日(火)~11月18日(日)(会期中無休)
特別展開催期間中は常設展は行っておりません。
場 所 松江市殿町の島根県立博物館です。お間違えのないように。
入 館 料 一般:500円(400円) 高大生:300円(200円)
小中生:100円(70円) ()内は20名以上の団体料金
開館時間 9:00~17:00

ちょっとお得情報 毎週土曜日と日曜日、14時から学芸員によるミュージアムトークを行います。是非この機会にご観覧ください。

3. 仮面土偶 (約3500年前・長野県茅野市中ツ原遺跡)

35cmの大型の土偶。逆三角形の仮面を被り、手を大きく腕を広げ、足を踏ん張る。よく見ると、仮面といっても目の部分がないぞ。いったいこれを使って何を祈ったのか考えてみよう。ところで展示ではわからないけど、本物の中味は空洞だよ。土偶では他にヤッホー君・ミサカッパ君(山梨県御坂町桂野遺跡)も登場。



ヤッホー君



ミサカッパ君

5. 赤漆塗り壺 (約2600年前・青森県八戸市是川中居遺跡)

外面は赤漆が塗られているが、内面は肩の部分までで、肩から下は生漆が塗られている。生漆を塗った後に赤漆を塗った工程が読みとれる。縄文時代の華麗な漆文化の逸品だ。いい仕事してます。



弥生時代

6. つぶて石 (約2200~2000年前・島根県松江市田和山遺跡)

3000個以上が出土。石は近くから取ってきた川原石だ。壕を渡ろうとした敵めがけて投げられたものなのだろうか。田和山遺跡からは他に祭で使われたと思われる銅剣形石剣なども登場。



7. 人面付土器 (約2000年前・栃木県栃木市大塚古墳群内遺跡)

目を閉じ、口を半開きになっている。眠っているのか、死んでいるのか? 写真ではわからないけど、頭のてっぺんには穴が開いている。なぜってもともと壺の口の部分に付いていたのだから。



8. 敷地3号銅鐸 (約1800年前・静岡県豊岡村西の谷遺跡)

この遺跡では明治年間に2個の銅鐸が発見されていた。2000年1月の発掘調査に先だって、金属探知器などにより調査がなされたが、その時にあらかじめ銅鐸の所在が確認されていた。弥



生時代の技術と現代科学の出会いの瞬間!

11. 船形埴輪 (約1550年前・三重県松坂市宝塚1号墳)

この船はプラモデルのように組立式。船に載せられているのは大刀、杖、日傘(蓋)、杖や傘は高貴な人が乗っていることを示しているのだろうか。ところでこの船、どちらが前?。みんな考えてみよう。



12. 金銅製馬具・金箔・新羅土器・二彩陶器 (約1450年前・長崎県熊本町双六古墳)

九州と朝鮮半島との間に浮かぶ奄岐島。玄界灘を臨む島中央の豪族の墓から出土した。土器や金箔などからは大陸との交流の姿が偲ばれる。



古墳時代

9. 線刻画木製品 (約1750年前・兵庫県出石町袴狭遺跡)

先頭の1隻の船に続く船、船、船。船団を描いたものだろうか。船の中には舳が口を開いた形に描かれたものもある。これは波よけ用の板だろうか。全部で船が何隻描かれているか、展示で確認してみよう。



10. 三角縁神獣鏡 (約1700年前・福井県福井市花野谷1号墳)

神の姿と獣の姿が交互に4体ずつ配置されている。またその回りには「日月」と「天王」の文字が刻まれている。邪馬台国の卑弥呼が中国からもらったものの1つなのだろうか。



古代

13. 金銅製垂木先金具 (約1250年前・奈良県奈良市法華寺阿弥陀浄土院跡)

屋根を支える垂木の先端を飾ったもの。天平文化の栄華を伝える。阿弥陀浄土院は、光明皇后の供養のために造られた寺院で、現存しない。



14. 加賀郡傍示札 (約1150年前・石川県津幡町加茂遺跡)

平安時代の農民の暮らしについて、お酒を飲んでさわぐな、などあれこれ規則を記した立て札。墨で書かれていたが、長い間野外に立っていたので墨が流れてしまっている。みんなこれを読めたのだろうか。



中世

15. 漆器椀・皿・お膳 (約600年前・神奈川県鎌倉市建長寺境内遺跡)

建長寺は執権北条時頼が1253年に開いた由緒あるお寺。1414年の大火災で、主要な建物はことごとく焼失している。往時をしのばせる品々。



16. 将棋コマ・サイコロ・碁石 (約500年前・福井県福井市一乗谷朝倉氏遺跡)

戦国大名朝倉氏の居城と城下町で1573年に織田信長によって焼き討ちされたもの。戦国時代の城下町の暮らしの様子がよくわかる。よく見るとコマには進むことのできる方向に印がつけられている。碁石は白石の出土が少ない。骨製だったためか、火災で失われたのだろう。サイコロは現在では、相対する2面の合計は7になるのが決まりだが、7にならないものも発見されている。昔の人がどんな風に通っていたのか、想像するのも楽しい。



地域展示

発掘された出雲の古代神殿

20. 鉄製品 (大社町出雲大社境内遺跡)

出雲大社巨大本殿建築のために使用された鉄製の釘など。柱の上面から出土した。釘は最長40cmもあり、いかに建物が大きかったかを物語る。ところで釘の先をよく観察してみよう。赤い色が見える。これから当時の柱が赤く塗られていたことが推測できるのだ。



21. 出雲大社本殿模型 (古代)

高さが48mあったといわれる本殿。東大寺大仏殿よりも高い日本一の木造建築だったといわれている。



近世

17. 賢瓶と埋蔵物 (約250年前・京都府京都市京都御所東方公家町跡)

公家の屋敷跡のほぼ中央部で見つかった。賢瓶とは密教で用いられる鎮壇具(除魔などのために土中に埋めたもの)、海成真珠、水晶、象牙製玉、五穀などが納められていた。



18. ままごとセット (泥めんこと土製の鳥) (約150~250年前・京都府京都市京都御所東方公家町跡)

子供の遊び道具。めんこの遊び方についてはお父さんやお爺さんなどに聞いてみよう。他に「白」と書かれているものがある。これは皿を割って碁石として用いたようだ。リサイクルは当然? だったのだ。



19. 砲弾・大砲の鋳型 (約150年前・山口県萩市郡司鋳造所跡)

長州藩(現在の山口県)の鋳物師の工房跡から見つかった。藩指定の軍事工房であり、幕末の攘夷戦で使われた大砲もここで作られたのかもしれない。もちろん、鍋や鉄先など日用品の鋳造も行われていたようだ。



22. 豊受大神宮(伊勢神宫外宮)正殿模型

伊勢と出雲。神話をはじめ様々な点で好対照をなしている。出雲大社が大社造なら、伊勢神宮は神明造。それぞれの神社建築の違いを観察してみよう。



第1回 神在月シンポジウム

徹底検証 出雲大社と心の御柱 - 人と柱の関わりを考える -



島根県古代文化センターでは、全国の神々が集まるとされる神在月(10月)に、様々な分野の最先端で活躍されている気鋭の先生方にお集まりいただき、島根の古代文化に関する多様な問題点を斬新な切り口で解明していただくシンポジウムを開催します。

第1回は、現在調査中の出雲大社本殿の心御柱(岩根御柱)を糸口に、人と柱の関わりについて考えます。

日時：平成13年10月13日(土)
13:00~16:40(開場12時)
場所：大社町文化プレイス「うらら館」(大社町杵築南・大社町役場西隣)

コーディネーター

関 和彦(共立第二高等学校教諭・島根県古代文化センター客員研究員/古代史/著書『新・古代出雲史など』)

パネリスト

宇津野金彦(神宮司庁造宮局造営部技師/建築史/論文「伊勢の遷宮諸祭と建て方 - 皇大神宮正殿を中心事例にして - など」)

豊田 有恒(島根県立大学教授/作家・古代史/著書『出雲のヤマトタケル』など)

萩原秀三郎(日本民俗学会会員/民俗研究家/著書『神樹』など)

松岡 高弘(国立有明工業高等専門学校助教授/建築史 論文「大社造本殿の平面型式の分類とその形態的特徴に関する実証的研究」など)

調査報告

・出雲大社境内遺跡発掘調査報告

石原 聡(大社町教育委員会文化財保護主事/考古学)

・出雲大社遷宮関係史料の紹介と解説

佐伯徳哉(島根県古代文化センター主任研究員/中世史)

聴講料：無料

申込方法：往復葉書・FAX・E-MAILにて、住所、氏名、電話番号、「シンポ聴講希望」とご記入の上、9月28日(消印有効)までに古代文化センターまで申し込みください。定員を600名とし、応募者多数の場合は抽選させていただきます。

主催：島根県古代文化センター・大社町教育委員会

共催：全国門前町サミット・出雲國門前市実行委員会



幻の名著・『いにしへの島根ガイドブック』

CD-ROMで復刊

平成8年に刊行し、約7,000冊が販売・配布された『いにしへの島根ガイドブック』。刊行後約1年で品切れし、多数の入手希望にもかかわらず、HP上での閲覧(<http://www.pref.shimane.jp/new/inishie/>)しかできず、皆様にご迷惑をおかけしていましたが、このたび、増補の上、CD-ROMで復刊しました。

このガイドブック、写真や図版を多く用いて、荒神谷遺跡や『出雲国風土記』など島根の特色ある古代文化をはじめ、古墳の探し方や県内の文化財に関する情報を小・中学生にもわかりやすく紹介したものです。

増補版では、銅鐸の形の変化、たたら製鉄の進化などをコンピュータグラフィックスによりビジュアルに解説したデジタルガイドや、発刊後発見された加茂岩倉遺跡や出雲大社境内遺跡に関する情報も見ることができます。

自分の住む地域について調べるために最適なこのガイドブックCD-ROM版。県内の学校や図書館などに配布してありますが、1枚500円で販売もしています。島根県立博物館(電話0852-22-6282)もしくは島根県文化財愛護協会(電話0852-22-5879)まで。

編集後記

古代文化センターって何?、とよく聞かれます。古代文化センターは島根の古代文化について調査研究を行うとともに、本号でも触れましたが、歴史民俗博物館や古代文化研究センターの準備作業などを行っています。主に発掘調査を行っている埋蔵文化財調査センターとよく混同されますが、互いに協力・連携しながら島根県の文化財の調査を進めています。また、スタッフの多くは県立博物館の学芸員でもあり、本号でも紹介した特別展などの展示や資料の保管にあたっています。えっ! 県立博物館ってまだやっていたの、と思われる方もいらっしゃるかもしれません。県立博物館

は、美術館が開館した後、歴史系の博物館としてリニューアルしているのです。ぼやきと宣伝をくりかえす編集後記でした。(品川)

編集発行

島根県教育庁文化財課 島根県古代文化センター

〒690-0887 島根県松江市殿町1番地 島根県立博物館内

TEL 0852-22-6727 FAX 0852-22-6728

URL <http://www2.pref.shimane.jp/kodai/>

http://nextdmuseum.pref.shimane.jp/shimane_2.htm

<http://www.pref.shimane.jp/new/inishie/>

e-mail: kodai@pref.shimane.jp